



ジョナサン・ハマー, *Operation Octopus*, 2020, パネルにミクストメディア
H117 × W143 × D6 cm

ジョナサン・ハマー

内覧会: 2021 年 7 月 29 日 (木)
2021 年 7 月 30 日 (金) - 9 月 11 日 (土)

個展

OPERATION OCTOPUS

現代美術 艸居

605-0089 京都市東山区元町 381-2

開廊時間: 10:00AM-6:00PM 定休日: 日・月

Tel: 075-746-4456 info@gallery-sokyo.jp

丸川コレクション展

巻物と触手

艸居アネックス

604-0924 京都市中京区一之船入町 375 SSS ビル 3 階

開廊時間: 1:00PM-6:30PM 定休日: 日・月

Tel: 080-9745-8452 info@gallery-sokyo.jp

現代美術 艸居 〒605-0089 京都市東山区元町 381-2

Sokyo Gallery 381-2 Motomachi, Higashiyama-ku, Kyoto, Japan 605-0089

T: 075-746-4456 F: 075-746-4457 info@gallery-sokyo.jp www.gallery-sokyo.jp



プレスリリース

この度現代美術 艸居と艸居アネックスでは、2021年7月30日（金）から9月11日（土）まで、ジョナサン・ハマー個展「OPERATION OCTOPUS」および丸川コレクション展「巻物と触手」を同時開催いたします。

艸居にて行われる個展では、ハマーの代表作である、多彩でエキゾチックな動物の皮と金箔押しを特徴とするマケトリー（木象嵌）作品、四国産の手漉き和紙に筆を走らせたドローイング作品のほか、3点の新作陶作品を展示いたします。日本では2度目、艸居では初めての展示となります。艸居アネックスでは、ユダヤ人と日本人という異文化間に成り立つ友情や共感から始まったというハマー作品の丸川コレクションより貴重な過去作を展示し、作家のこれまでの活動が最新作とどのような繋がりを持っているのかを検証します。

世界的な移民問題や自身の家系がたどってきた歴史に触発されたハマーは今回、継続的に展開している《Kovno/Kobe》（コブノ／神戸）プロジェクトの最新作を発表します。リトアニアのコブノ（現・カウナス）のユダヤ人が日本人外交官・杉原千畝（すぎはら ちうね）の「命のビザ」発給によって大挙して国外へと逃れ、ロシアを経てやがて神戸で逗留するという第二次世界大戦中に起こった出来事を見つめるプロジェクトです。

「急激かつ突発的に異文化に接するとき、他者というものはどう見えてくるのだろうか」——この自身の問いに対しハマーは記号論（記号、シンボル、用途、解釈を中心とする思想体系）を援用して解き明かそうとします。アウトサイダーの誤解と曲解された日本像が織りなす日本の歴史を思うとき、この問いはいっそう強い関連性を帯びてきます。難民の受け入れ側は難民をどう見ているのか？そして、その逆はどうだろうと——。日本へやってきた最初期の西欧人が経験した文化的衝突を描き出す16世紀の南蛮屏風から着想を得たハマー作品は、神戸に逗留した東欧諸国のユダヤ人の経験への共鳴を試みます。ハマー作品《Operation Octopus》は記号論的な表象というテーマに深く入り込んでゆき、タコをユダヤ人に替わるイメージとしてとらえ、ユダヤ人難民の巻き毛の髪をタコの足になぞらえています。

京都・蛸薬師（たこやくし）堂に伝わる、よく知られた話があります。戒律を破った僧侶が、死にゆく御母堂が食べたいと望んだことから生きたまのタコをたずさえて京のまちを歩いたという説話、ハマーはこれを今回の京都展示の中心に据えています。——住職や寺内の僧侶が、道ゆくこの僧侶を捕まえて箱の中身は何かと問いかけ、背徳の僧侶が箱の蓋を開けると目を疑う光景がそこにありました。タコは箱の中で經典に姿を変えていたのです——。ユダヤ教理を修めた者は、数百人単位の虐殺がありながらも、杉原千畝の手によって救済され日本へと逃れました。ハマーがタコの足になぞらえている、巻き毛をたたえる若いユダヤ人学者の大部分は、ユダヤ教の經典であるトーラの巻物の守護役を務めていました。今回、ハマーは蛸薬師道



の伝承を持ち込んで、コブノから神戸へたどったユダヤ人の記号論的な解釈に重ね合わせています。

行き場を失い離散した人びとに起こる自己性の変容と崩壊——多彩でエキゾチックな動物の皮を配し、制作には骨の折れるマケトリー作品ですが、ハマーは半ば抽象的かつ比喩的なスタイルで、断片化されたアイデンティティのパズルというべきものを精緻に再構成しています。本作品で描写されるタコは、羊皮に綴られたトーラへと、まざまざとその姿を変えます。

本展示の表題作《Operation Octopus, 2020》は、サケ、リザードシャーク、カエル、ビーバーの尻尾、アザラシ、ヘビ、エイなどの皮を配した木象嵌作品で、1930年代の日本を魅了した、アールデコの影響が色濃いヨーロッパ的なデザインを取り入れています。本作品が示唆するものは、動物が経典へと変貌を遂げるなかで生まれる奇跡的な瞬間であり、異文化間での解釈の相違を下敷きとした鏡像です。本大型作品では、帽子の中にあるタコは敬虔な巻き髪のユダヤ人に、カニの甲羅に見立てた巻物の上端にあるトーラ冠はカニへと、それぞれの形態の変容が見て取れます。

この大型作品に加えて、今回3点の小さなレザーパネル作品も展示し、大型作品と同様にユダヤ人になぞらえたタコが経典に変化を遂げる瞬間を見つめます。そのほか、同じく京都に伝わる伝承を取り上げたドローイング7点、タコが本を象った木製ブロックに姿を変える陶作品3点も紹介いたします。

ジョナサン・ハマー

1960年シカゴ生まれ。現在スペインに在住し制作。これまでに45回以上の個展を様々な国にて行う。30年に渡りドローイングや写真、書籍、彫刻、陶、版画などに加え、代名詞でもある珍しい動物たちの皮を繋ぎ合わせた装飾パネルを作成。これまでドイツ、スイス、ノルウェー、フランス、イギリス、アメリカ、メキシコ、そして日本にて幅広く展示を行っている。ニューヨークでは10回の個展を開催（そのうち5回はマッシュ・マークス・ギャラリーにて）。美術館での数多くのグループ展に加え、ジュネーヴ現代美術センター（ジュネーヴ・スイス）やバークレー美術館（バークレー・カリフォルニア・アメリカ）、ダーフナー美術館（ブロンクス・ニューヨーク・アメリカ）にて個展を行っている。コレクションには、ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク・アメリカ）、サンフランシスコ近代美術館（サンフランシスコ・カリフォルニア・アメリカ）、ロサンゼルス現代美術館（ロサンゼルス・カリフォルニア・アメリカ）、アーモンド・ハマー美術館（ロサンゼルス・カリフォルニア・アメリカ）、バークレー美術館（バークレー・カリフォルニア・アメリカ）、ホイットニー美術館（ニューヨーク・アメリカ）、ジュメックス・コレクション（メキシコ）などがある。出版物には『球と金槌（BALL AND HAMMER）』（エール大学出版、2002年）があり、チューリッヒ・ダダに関する批評を執筆している。入賞歴には、アート・マターズ・ニューヨーク、プロ・ヘル



ヴェチア（スイス・アート・カウンスル）、ニューヨーク・ユダヤ文化記念財団、ポロック・クラスナー財団、ピュー慈善信託などがある。また、スペインのアーティスト・レジデンス「ヴィラ・ベルジュリー」の創設者である。

是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。
掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けると幸いです。

プレス担当:元林久美子

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2

motobayashi@gallery-sokyo.jp

Tel: 075-746-4456 Fax: 075-746-4457

新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、当面の間アポイントメント制とさせていただきます。
ご予約は弊廊 HP、メールまたはお電話にて承ります。ご希望日時、氏名、ご連絡可能な電話番号、メールアドレス、ご来廊の人数をご来廊前日までにお知らせください。ご安心してご覧いただけるよう調整させていただきます。ご迷惑をおかけしますが、どうぞご理解のほどよろしくお願い申し上げます。みなさまどうぞご自愛くださいませ。